

■2018年2月号正誤表

電験「理論」を極める！

頁・該当箇所	誤	正
<p>p. 86 左段・図5の 下の文中 ※網掛箇所を変更、お よび説明文を追加</p>	<p>このように、外部とのエネルギーのやり取りの有無によって、極板間に働く力の向きは真逆になることに注意が必要である。</p>	<p>このように、外部とのエネルギーのやり取りの有無によって、極板間に働く力の式の符号は真逆になることに注意が必要である。 ∂x が正の場合、キャパシタンス C は減少するため、電荷一定時は $U = Q^2/(2C)$ より U は増加し、電圧一定時は $U = CV^2/2$ より U は減少する。したがって、電荷一定時は $\partial U/\partial x$ が正、電圧一定時は $\partial U/\partial x$ が負となるので、いずれの場合でも極板間に働く力は負となるため、引力が働くことになる。</p>